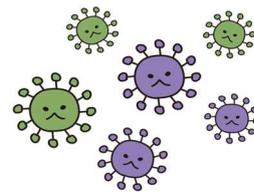


パンデミックワーキングⅡ

厚木高校B班



【目的】

私は話し合いの場において、ありきたりな考えしか出せないことに悩んでいました。そこで、この企画に参加して、周りのみんなと協力しながら、周りをあっと驚かせることができるような面白くて新しい解決策を作ることができるようになるために参加しました。

【発表に至るまで】

12/8

初めて参加メンバーと対面したとき。
インフルエンザが流行っていて、
何人か会うことができませんでした。
会場に入ると賢そうな参加者がたくさんいて、
とても緊張しました・・・。



大きなクリスマスツリー！！テンションアップ♪

その日は自己紹介とテーマ決め、懇談会を行いました。

私たちの班のテーマは「届け！専門家の声～国民が納得して行動できる情報発信～」です。
コロナ禍で多くのデマに惑わされた経験から、情報化が進む社会で正しい情報のみを広めるにはどうしたらいいか話し合いました。

懇親会！！

一気に他校の人との距離が縮まり、連絡先まで交換しました。

（後々これが大きな力に・・・。）

同じ班の人はみんな初対面だし、自己紹介の時間も他校の人と話すことを意識したから気が張っていました。

12/9 ～

ここからは各チームで動きました。

はじめは何から始めていいかわからず、なかなか活発に動いていませんでした。そこで他の学校の子（連絡先を交換した子）に相談をしたところ、校内でアンケートを取ったり、週に1回集まっているということを知りました。それを聞き、とりあえずみんなで集まってみることから始めました。まずは中間報告会に向けて。

私たちが考えた案に対してリモートでアドバイスをいただける機会です。そこで私たちは、デマが生まれないように専門家や政治家の方々のみが情報を発信できる新たなアプリの開発を提案しました。

実際にお話を聞きながらとったメモが右の画像です。
その進捗報告会を経て、他グループの発表も聞くことができる進捗報告会や本番の発表に向けて更に準備を進めました。

休日も電話で話し合いました。

私たちの班はアプリケーションの案を深めるとともに、他に2つの案を提案することにしました。

3/18 本番前日

本番は7分間の発表と5分間の質疑応答があったため、質問にスムーズに答えることができるように厚木高校の先生に自分たちの発表を見ていただくことにしました。頂いたアドバイスをもとに訂正をしたり、スマホ（原稿）を見ながらだと伝わらないとご指摘をいただき、スマホを見ずに発表できるようもう一度練習しました。緊張とワクワクが入り混じった状態で帰宅しました。

3/19 成果発表当日

会場にあったクリスマスツリーはもうなくなっていました・・・。

私は一人で発表するグループになったため、ロビーや自分の座席でひたすら練習を繰り返していました。

運命の順番決め！

私は11人中7番目で、休憩を挟んだトップバッターでした。手にはスライドを操作するためのリモコンのみを持っていましたが、繰り返しの練習の成果からか、次に話すことが自然と浮かんできて、原稿がなくても滞ることなく発表ができました。実際に先生の講評で、スマホを見ないで発表できるともつといいとお話されていて、昨日見ていただいて良かったなと思いました。

だがしかし

予想外の質問に頭が真っ白になってしまう事件発生

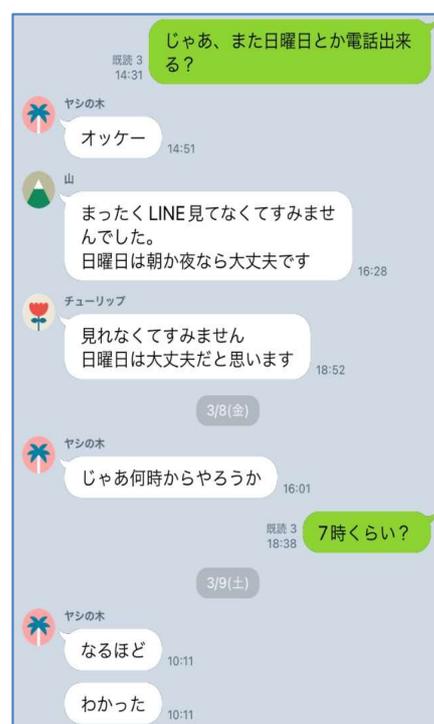
なんとかその場で考えた自分の意見を言いましたが、時間がかかってしまい、反省点として残りました。

全員の発表が終わったあと、他のチームの提案に対してお互いに議論しあった時間がとても楽しかったです。

修了証授与式！！

懇親会の最中に同じグループだった子や発表を聞いてくださった先生方から「発表上手だったね」と声をかけていただきました。

どういうサイトにどういうふう
みんながこういうのだったら読みたい
どういじょうほうをどういじょうふうきうけとる？
すくなくともこう書いて欲しい
埋もれない情報発信
どこにどうやって
なぜいい？なぜやだ
YouTubeの広告は？
何見てる？アンケート
利益を書く
政府情報発信変わってない
Projectのページの改善点
3つ提案あってもまる
キャラクターをつくる
自分にとってベストな情報発信
アプリがごーるではない
これがやだった
こうだったら伝わる
➡なぜ？
アプリにPDFのったら意味無い



【よかったこと、学んだこと、成長できたこと】

“今までの自分なら思いつくことが出来なかったような新しい案を作る”という明確な目標を持って取り組み、そんな案の作り方を学ぶことができました。それは「可能不可能に縛られず、とりあえず自分たちの理想を出してみる」ということです。今までは自分たちの経験の中から解決策を探していましたが、それだと堅苦しくて面白くなかったです。そこで先生方から、自分たちがどういうものだったらみるのか、どういうものだったらみたいと思うのかをもう一度考えてみてというアドバイスを頂きました。自分たちの理想を出し、そこからそれを実現するにはどうしたらいいか考える。この過程が大切なんだと発見することが出来ました。この発見を今後の話し合いの場面で活かしていきたいです。また、実は今まで私は、自分だけでひとつの案を作ってしまうことが多かったのですが、今回もし1人だったらありきたりな案しか思いつかなかっただろうし、発表にまで至れなかったと思います。最後までやり遂げることができたのはチームの皆や先生方のサポートのおかげです。今後は、自分からもっとみんなに話しかけて、色々な意見を取り入れていきたいと思いました。

【感想、振り返り】

準備期間には別のチームと情報共有を行ったり、それを参考にして進めたりしていたので、チームごとに別れるとはいえども、同じ目標に向かって一生懸命になっている感覚があつてとても楽しかったです。発表に向けて練習すればするほど改善点が見つかり、最後の最後までより良い発表を目指して努力できたと思っています。しかし、専門家の方々の視点はとても鋭く、答えられない質問に出会ってしまいました。私は他の発表を聞く時、どのグループにも質問ができるように注意深く聞いていたのですが、その後毎回ある専門家の方の質問の視点には驚かされました。なぜなら、どれも現在の社会状況や世の中の仕組み、傾向を踏まえた質問だったからです。そのような質問にも答えられるようになるには、もっと日常的に身の回りに関心を持つ必要があると考えました。また、次回このような機会があった場合、本番の会場では発表練習よりは周りの人と関わることに重点を置きたいと思います。私たちの行動で、学校の垣根を越えてお互いにアドバイスし合える場にしていきたいです。このパンデミックワーキングのおかげで、国を動かす仕事にも興味湧くようになりました。もし自分が将来そのような仕事に就いたら、このパンデミックワーキングを思い出し、実際に社会へ役立てていけたらいいなと思います。

チーム厚高！ありがとうございました！